

2012 年度第 2 回 GBIF 日本ノード運営委員会議事要旨

日 時： 2013 年 3 月 28 日（木） 14：00～15：25

場 所： コンファレンススクエアエムプラス ミドル 1

出席者： 伊藤、大久保、大澤、大原、奥山、白木澤、多田内、藤倉、細矢、松浦(副委員長)、三橋、山崎剛、山崎由の各委員

欠席者： 森脇(委員長)、城石、小池、柴崎の各委員

オブザーバ： 中尾 文子 環境省自然環境局 自然環境計画課 生物多様性国際企画官

竹原 真理 環境省自然環境局 生物多様性センター 調査科

石川 忠 東京大学大学院 総合文化研究科・研究員

宇津木 望 東京大学大学院総合文化研究科・特任研究員

神保 宇嗣 国立科学博物館動物研究部陸上無脊椎動物研究グループ・研究員

福田 知子 国立科学博物館動物研究部・支援研究員

NBRP 佐藤事務局長、事務局員

国立遺伝学研究所 鈴木知的財産室長

事務局： 研究推進課研究推進チーム 事務職員

議事に先立ち、松浦副委員長から森脇委員長欠席のため、研究開発施設共用等促進費補助金(ナショナルバイオリソースプロジェクト)事業の実施に係る各種委員会設置要項第 4 条第 4 項に基づき、議事を代行する旨の発言があり、了承された。

1. 報告事項

(1) 戦略、委員会設置要綱等

松浦副委員長から、GBIF 日本ノードの活動について平成 25 年度から国立科学博物館を中心に運営していくことに伴い、本委員会の運営及び事務局についても国立遺伝学研究所から、国立科学博物館に担当を移す旨の説明があった。また、細矢委員から、資料 1 及び 2 に基づき、本委員会設置要項(案)及び、本委員会作業部会設置要項(案)についても、準備中である旨の報告があった。

細矢委員から資料 3 及び 4 に基づき、第 1 回委員会で提案のあった「日本ノード戦略 2012-2016」及び「日本ノードワークプログラム 2012-2016」について最終版を取り纏めた旨の報告があった。

(2) 国際活動の報告

伊藤委員から口頭にて、理事国会議の実施状況及び 4 月末から 5 月にかけて開催予定のミッドタウンミーティングの検討状況について報告があった。なお、財政難問題に関連し、財政タスクグループ(GBIF Task Group on Financial Sustainability)が設置された旨の報告があり、引き続き、中尾オブザーバから、配付資料に基づき概要の補足説明があった。

なお委員から予算減少について、事務局の雇用問題は生じていないかとの質問があり、伊藤委員から人件費等中核的な部分に影響は出ていないが、新たなプログラムに回す予算が逼迫しており、現状維持

のみに留まっているとの発言があった。

(3) 平成 24 年度各機関の活動報告

・国立遺伝学研究所

山崎委員から資料 6-1 に基づき、ポータルサイトの安定運用と利用促進に向けた試み、GBIF データ登録・公開及び各種サービスの更新（バーコードオブライフデータを用いた生物種同定システムのデータ更新は今年度更新見合わせ）、運営委員会及びワーキンググループの開催状況について報告があった。

・東京大学

伊藤委員から資料 7 に基づき、主に、生物多様性情報の国際標準化対応（第 60 回日本生態学会大会自由集会の実施）、種名チェックリストの作成（日本昆虫目録委員会及び目録執筆者との協働確立データの収集・更新）、種情報・DNAバーコード集積システム構築（日本バーコードオブライフ・イニシアチブとの連携による情報発信）、及び追加予算で実施した、古文献上の生物分布情報の集積（4 学術誌の電子化及び標本情報抽出）について報告があった。

・国立科学博物館

細矢委員から資料 8 に基づき、生物多様性情報の国際標準化、標本情報の電子化、データベース構築、標本のメタデータベース作成、自然地名辞書の充実、分類学人材データベースの充実、広報活動について報告があった。

(4) ワーキンググループの活動報告

細矢委員から資料 9 に基づき、以下の項目について報告があった。

- ・戦略及びワークプログラムの決定
- ・パンフレットの出版(2012. 10;2013. 2 再版)と配布
- ・参加覚書 (MOU) 等資料の翻訳及び HP 掲載 (資料机上配布)
- ・分子生物学会における拡宣活動(2012. 12. 11-14)
- ・インドネシアメンタリングプログラムへの参加(2012. 11、2013. 2)
- ・アジア地域における絶滅危惧種リスト・移入種リスト・チェックリストに関するワークショップ(2013. 3. 12-13)への協力
- ・ワークショップ 21 世紀の生物多様性研究(通算第 7 回)「絶滅危惧種と生物多様性情報」(科博の活動報告参照)
- ・第 20 回自然史標本データ整備事業による標本情報の発信に関する研究(2012. 3. 19)(科博の活動報告参照)

2. 審議事項

(1) 平成 25 年度各機関の活動計画

・国立遺伝学研究所

山崎委員から資料 6-1 および 6-2 に基づき、ポータルサイトの安定運用と利用促進に向けた試みの継続、GBIF データ登録・公開及び各種サービスの更新などについて説明があった。

・東京大学

伊藤委員から資料7に基づき、主に生物多様性情報の国際標準化対応、種名チェックリストの作成、生物分布情報(観察・観測データ)の収集・電子化、種情報・DNAバーコード集積システム構築・支援、について、24年度に引き続き継続する旨の説明があった。なお、24年度追加予算で実施開始した古文獻上の生物分布情報の集積についても、25年度は前述課題と共に当初計画に組み入れている旨の説明があった。

・国立科学博物館

細矢委員から資料8に基づき、生物多様性情報の国際標準化、標本情報の電子化・データベース構築、標本のメタデータベース作成、自然地名辞書の充実、分類学人材データベースの充実、広報活動、運営委員会事務局の変更(遺伝研→科博)について説明があった。

なお山崎委員から、GBIF運営の拠点が遺伝研から科博に移動することについては事前に委員長、文科省ライフ課等関係各位への確認、了承をいただいております。既に運営の中心が科博に移りつつあり、現状に即したものであること、遺伝研で実施しているポータルサイト整備事業は変わらないことについて補足説明があった。

以上の各研究計画について、委員会としてこれを承認した。

(2) ワーキンググループの活動計画

細矢委員から資料9に基づき、以下の項目について説明があった。

- ・ 広報活動の継続・充実、HP更新、IPT2の日本語化と試験的運用、Darwin Coreなどの国際標準のデータベースについてのガイド作成、蓄積された生物多様性情報を利用した成功事例の収集・紹介、GBitsの翻訳継続
- ・ 関連プロジェクト・団体との連携を模索
- ・ 研究会・ワークショップの開催への協力
- ・ GBIF アジア地域活動への参加
- ・ その他、戦略目標・ワークプログラムに則った活動

上記計画について、委員会としてこれを承認した。

(3) その他

松浦副委員長より、森脇委員長からの指名により来年度、委員長をお受けすることになったとの報告があり、委員会としてこれを承認した。引き続き、副委員長について大原委員の指名があり、あわせて了承された。

最後に、松浦副委員長より謝辞が述べられ、閉会した。

以 上